

アンケート結果の分析と考察

令和元年8月に、町内在住の小学1年生から高校3年生までの児童を対象に、アンケート調査を実施し、結果について、前回（平成25年度）と今回の調査結果の比較やクロス集計を用いて分析・考察を行いました。

前回（平成25年度）と今回のアンケート調査結果の比較と、今回のアンケート調査の分析結果について、特徴のあったものを中心に、以下に掲載します。

問2 あなたは、「みんなと一歩ずつ未来に向かっていく東員町子どもの権利条例」を知っていますか。

問3 上記をどんな方法で見たり聞いたりしますか。（報告書 P.4、P.5）

問2	件数	知っている	知らない	無回答
全 体	2,411 100	1,123 46.6	1274 52.8	14 0.6
小学生 低学年	698 100	212 30.4	482 69.1	4 0.6
小学生 高学年	703 100	451 64.2	251 35.7	1 0.1
中学生	639 100	324 50.7	311 48.7	4 0.6
高校生	344 100	127 36.9	214 62.2	3 0.9

上段：人数（人） 下段：割合（％）

問2では、小学校低学年が10%台と低いが、1年生については、入学直後のため、アンケート実施時期までに学習していないことが原因と考えられる。小学校中学年から中学生は比較的高値である。高校生では中学校卒業から時間が経つにつれ、45%から27%へと低下している。条例策定後5年経過しているが、学習の機会が数年のみと少なかったことも要因と考えられる。

問3の条例について、学校の先生の話や学校で配られたパンフレットから知る割合が高く（67%）、家庭や地域など、それ以外で情報を得ることは少ないと思われる。

小学校低学年は年齢的なこともあり、一度の学習では定着が難しいと考えられ、高校生は条例にふれる機会がないと思われる。

学校、家庭、地域など、子どもに関するさまざまな場所で、「子どもの権利」にふれる機会を作ったり、啓発していく必要があると考える。

令和元年度

問5 あなたが楽しかったことや嬉しかったことを聞いてくれる人がいますか？

問6 あなたが困ったときや悩んだときに話を聞いてくれる人がいますか？

いる、どちらかと言えばいる・・・94.1%
いない、どちらかと言えばいない・・・2.6%
無回答・・・3.3% （報告書 P.6、P.7）

平成25年度

あなたは自分の気持ちを聴いてくれる人がいますか？

いる・・・94.6%
いない・・・4.3%
無回答・・・1.0%

問6で「いる」「どちらかと言えばいる」と答えた児童のうち、問6-1では、話を聞いてくれる人は誰かを尋ねている。（複数選択可）

聴いてくれる人は、全体では、「友達」が一番多く80.5%、次いで「お母さん」が73.5%、「お父さん」が49.2%、「先生」が35.8%となった。学年別では、小学生では「お母さん」が一番多く、特に、低学年では85%以上を占める。中学生以降は、「友達」が突出して多く90%以上を占める。子どもの気持ちにしっかりと耳を傾け、子どもの自我が確立されてくる中学生ごろからは、**子どもたち同士が互いの権利を尊重し合いながら成長していけることが大切**であると考え。

問6 あなたが、困ったときや悩んだときに、話を聞いてくれる人がいますか？

×

問13 つらい気持ちになったときに、あなたはどうしますか？

(報告書 P.39)

困ったときに話を聴いてくれる人がいると答える傾向の子どもは、だれかに相談する傾向が高くなり、いないと答える子どもは、「がまんする」や「気にしない」と答える傾向がみられる。このことから、**子どもの話を聴き、気持ちを受け止めてくれる人の存在は、子どもが心の声を内に秘めず外へ届けることにつながる**と考えられる。

令和元年度

問8 あなたは、安心できる場所がありますか？

ある、どちらかと言えばある・・・94.8%
ない、どちらかと言えばない・・・2.6%
無回答・・・2.6%
(報告書 P.10)

平成25年度

あなたに安心できる場所がありますか？

ある・・・85.8%
ない・・・11.4%
無回答・・・2.8%

問8では、「ある」「どちらかと言えばある」と答えた児童が前回調査よりも9%増加した。

「ない」「どちらかと言えばない」「無回答」の児童は、5.2%（125人）おり、既存の場所が安心して過ごせる場所となるような取り組みや新たな居場所の確保について考える必要がある。

問8で「ある」「どちらかと言えばある」と答えた児童のうち、問8-1では、その場所がどこかを尋ねている。（複数選択可）

場所について、「自宅」と答えた児童は9割を超え、次いで、祖父母宅、学校の順となった。子どもが生活する最も中心的な場所が家庭であり、今後も子どもたちが一番安心できる居場所であり続けるために、**家庭や保護者に対する啓発や施策の充実に取り組む必要がある**と考える。

令和元年度

問9 あなたは、家庭や地域、学校など普段生活しているなかで「大切にされている」と感じますか？

感じる・・・62.3%
どちらかと言えば感じる・・・28.0%
どちらかと言えば感じない・・・3.6%
感じない・・・1.7%
無回答・・・4.4%

(報告書 P.12)

平成25年度

◇あなたは家族から大切にされていると思いますか？

◇あなたは先生から大切にされていると思いますか？

◇あなたは友達から大切にされていると思いますか？

思う・・・66.3%
まあまあ思う・・・26.2%
あまり思わない・・・3.7%
思わない・・・1.3%
無回答・・・2.4%

問9 あなたは、家庭や地域、学校など普段生活しているなかで「大切にされている」と感じますか？

×

問14 あなたは、ありのままの自分のことが好きですか？

問 1 4	件数	感じる	どちらか といえば、 感じる	どちらか といえば、 感じない	感じない	無回答
全 体	2,411 100	1,502 62.3	675 28.0	87 3.6	40 1.7	107 4.4
好き	848 100	707 83.4	102 12.0	13 1.5	6 0.7	20 2.4
どちらかとい えば、好き	613 100	372 60.7	208 33.9	13 2.1	3 0.5	17 2.8
どちらかとい えば、好き ではない	244 100	97 39.8	114 46.7	18 7.4	1 0.4	14 5.7
好きではない	192 100	62 32.3	85 44.3	19 9.9	17 8.9	9 4.7
わからない	476 100	258 54.2	164 34.5	23 4.8	13 2.7	18 3.8

上段：人数（人） 下段：割合（％）

まわりから大切にされていると感じている児童ほど、ありのままの自分を好きと答える傾向が高いが、まわりから大切にされていると感じているにも関わらず、自分のことを好きになれない児童も多くいる。

子どもが周囲に受け止めてもらいたい気持ちと周囲が子どもに求める姿に差がある可能性がある。

一人ひとりの成長や発達段階に応じた適切な関わりや支援が必要であると考えられる。

問 1 4 あなたは、ありのままの自分のことが好きですか？

×

問 1 5 あなたは、はじめて何かをするときに「わたしはきっとできる！」などと思って頑張ることができますか？

問 1 6～1 8 あなたは、家族、学校、友達やグループで、自分の考えや、言いたいことを伝えることができますか？

問 1 9 あなたは、自分で決められることは自分で決めていますか？（報告書 P.40、P.41）

ありのままの自分を好きと答える傾向の子どもは、「はじめて何かをするとき」や「他の人に自分の考えを伝えること」などが「できる」と答える傾向が高い。**物事へ取り組むときの自信や行動力、コミュニケーション能力を育てるためには、自己肯定感を高めることが重要である**と考えられる。

問 1 5 あなたは、はじめて何かをするときに「わたしはきっとできる！」などと思って頑張ることができますか？

×

問 5～6 あなたが、楽しかったことや、嬉しかったこと、困ったときや悩んだときに、話を聴いてくれる人がいますか？

問 8 あなたは、安心できる場所がありますか？

問 9 あなたは、家庭や地域、学校など普段生活しているなかで「大切にされている」と感じますか？

問 1 0 あなたは、親（保護者）などの大人は「自分のことをわかってきている」と思いますか？

問 1 1 あなたが自分のことを決めるとき、親（保護者）などの大人は、あなたの意見を聴いてくれますか？（報告書 P.49～P.51）

はじめて何かをするときにできると答える傾向の子どもは、「話を聴いてくれる人」や「理解してくれる人」が「いる」、「安心できる場所」や「大切にされていると感じること」が「ある」と答える傾向が高い。このことから、**子どもの話を聴くことや大切にすること、安心できる場所をつくることは重要であり、これによって物事へ取り組むときの自信を育てることにつながる**と考えられる。

問19 あなたは、自分で決められることは自分で決めていますか？

×

問20 あなたが、やりたい・やると決めたことを「大丈夫だよ」「がんばってね」と励ましてくれる人はいますか？

問21 あなたの意見や考えは、家族や先生などまわりの大人に大切にされ、あなたに寄り添ってくれていると思いますか？ (報告書 P.42)

問21 あなたの意見や考えは、家族や先生などのまわりの大人に大切にされ、あなたに寄り添ってくれていると思いますか？

×

問16～18 あなたは、家族、学校、友達やグループで、自分の考えや、言いたいことを伝えることができますか？ (報告書 P.43)

自分で決めることは決めていると答える傾向の子どもは、「励ましてくれる人の存在」や「自分の考えに寄り添ってくれる人の存在」が「いる」と答える傾向が高い。このことから、**子どもを励ますことや寄り添うことは重要であり、励まされることにより決断力の向上につながる**と考えられる。

また、「励ましてくれる人の存在」や「自分の考えに寄り添ってくれる人の存在」が「いる」と答える傾向の子どもは、「他の人に自分の考えを伝えること」などが「できる」と答える傾向が高い。このことから**子どもに寄り添うことは重要**と考えられる。

問25 あなたは、住んでいるまちのために、役に立ちたい、住んでいる人と一緒に活動したいと思いますか？ (報告書 P.29)

「思う」、「どちらかと言えば思う」と回答した児童は全体で 72.5%、どの学年でも 70%ほどいる。子どもにとって身近な地域での子ども同士の交流や大人との多様な関わりは、子どもたちの健やかな成長にとって大切であると考えられる。

問25 あなたは、住んでいるまちのために、役に立ちたい、住んでいる人と一緒に活動したいと思いますか？

×

問6 あなたが、困ったときや悩んだときに、話を聴いてくれる人がいますか？

問8 あなたは、安心できる場所がありますか？ (報告書 P.47、P.48)

住んでいるまちのために役に立ちたいと答える傾向の子どもは、「話を聴いてくれる人」が「いる」、「安心できる場所」が「ある」と答える傾向が高い。**子どもの話を聴くことや安心できる場所をつくることで、一緒に活動したい、役に立ちたいという気持ち生まれ、これらによって社会参加や社会貢献への心が育つことにつながる**と考えられる。

❖❖❖ 分析と考察のまとめ ❖❖❖

アンケート調査の結果から、子どもの気持ちを受け止め、寄り添い、励ます人の存在は、子どもたちにとって安心できる場所となり、それによって、子どもたちが自信を持ち、自尊心や自己肯定感を高めることができると考えられる。高い自己肯定感を持つ子どもたちは、自ら決定し、行動する自主性を育み、互いを尊重しながら、自立へ向けて成長していくと考えられる。また、社会参加や社会貢献への心が育つことにもつながると考えられる。